

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270105325		
法人名	有限会社メディカル葉山		
事業所名	よなわグループホーム		
所在地	長崎県長崎県長崎市岩屋町25-7 4階		
自己評価作成日	令和4年 1 月 30 日	評価結果市町村受理日	令和4年5月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和4年 3月 2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・24時間対応できる訪問診療の医療機関と提携している ・職場のチームワーク・助け合いの心をもって、仕事に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念は医者であった設立者が目指す“医療と介護の一体化”が根底にあり、現在は2つの協力医と24時間医療連携体制を構築し、受け継がれている。また、「これまで日本を支えてこられた方々に感謝して恩返しする」理念の思いは職員に浸透し、入居者に優しく接し夫々の暮らし方を尊重した支援に努めている。コロナ禍で外出や面会ができない寂しさを工夫を凝らした季節行事や手作り料理、コロナ感染者減少の隙間を縫って、近場の花見やドライブに出掛ける等、楽しく活動できる機会を設け笑顔を引き出している。運営推進会議では、毎回各委員に事前に伝えたテーマを基に、活発な意見交換を運営に活かしていることが議事録から確認できる。家族、本人が参加する担当者会議など、介護計画作成の手順はPDCAサイクルが機能し、本人本位の介護計画になっており、高く評価できる。入居者が安心し穏やかなゆったりとした暮らしが見えるホームである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各フロア休憩室に掲げてあり現に向け取り組んでいる。優しい心と笑顔で寄り添う。	月1回のミーティングや日々の実践の中で、理念に立ち返り職員間の意識を高めている。理念の背景にある設立時の「これまで日本を支えてこられた方々に感謝して恩返しする」姿勢も浸透している。職員の寄り添った穏やかな声掛けもあり、理念の具現化が確認できる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	他業職員と共に地域へのつながりを大切にこちらから出向いている。	自治会に加入し回覧板が回ってきている。今年度職員が、包括支援センターの呼びかけで、近隣中学校での“認知症講座”の寸劇や地域住民に向けた“家族介護者教室”に参加しており、新型コロナウイルス感染者数が少ない時期に、地域に出向き繋がりを継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	エレベータ内や玄関の所に紹介や案内等を掲げている。運営推進会議の議事録を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月には運営推進会議を開催し意見交換を行っている。	新型コロナ禍のため、今年度は第1回は書面会議、第2回から対面会議を実施している。対面会議では、事前に委員に議題を伝え開催しており、意見交換の内容が議事録から確認できる。ただし、書面会議では意見等を回収出来ていない。また運営推進委員も少なく特定している。	書面会議においても、運営推進委員の意見や感想等を回収し、議事録に反映した上でサービス向上に活かしていくことが望まれる。また、現状の運営推進委員の他、知見者等各分野における委員、更には家族も含めた増員に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には参加して頂き意見交換を行っている、	市の担当課職員の定期的な訪問がある他、行政からオンライン研修の案内があり参加している。不明な点を問い合わせ情報を得るなど協力関係を築くよう取り組んでいる。新型コロナ禍以前は介護相談員を受け入れ、報告内容を支援に活用しており、収束後は再開予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会にてDVD研修等を行い職員が身体拘束に対しての知識を持てるようにしている。拘束をしないより良いケアに努めている。	指針を整備し、身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月毎に開催すると共に、DVDを活用し身体拘束についての理解を深めている。年2回の内部研修「不適切ケアを考える」にて、全職員への周知も図っている。言葉の拘束はその都度管理者が指導しており、拘束のない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	DVD等での研修を行い細かい点でも把握するよう努めている。虐待がおこらない様一人一人が十分に注意し日々の介護を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設での対応者がおらず実施される機会が無い状況である。各個人での学びとなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明行い、料金や医療機関との連携体制をしっかりと理解してもらい同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見を聞き希望に出来る限り応じている。ケアプランの説明時や面会時には必ずご家族の要望や意見を聞き、サービス計画にも反映させている。	苦情相談窓口や手順は、明文化し家族へ説明している。家族の意見は面会時に出されることが多く、気軽に話せる雰囲気づくりを心掛けている。面会制限がある新型コロナ禍では、電話での連絡時に抽出している。また、家族へ毎月のホーム便りや運営推進会議議事録を郵送し、家族はホームへの理解と信頼を深めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回管理者会議にて各部署の意見報告を出し反映させている。	職員は月1回のミーティング時や日常業務の中で、意見や要望を出している。代表者や役員はミーティングに参加し、意見や要望は毎月の管理者会議で検討し、フィードバックしている。また、様子が気になる職員には個別に面談するなど、働きやすい職場づくりに努めている。大型空気清浄機の導入など職員意見の反映がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの報告にて現場でおきている状況や変化を把握してもらっている。年1回ないし2階の健康診断も行っている。最低限の給与水準だと思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各個人からの研修へも参加も積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ渦と言う事もあるのか今はほとんど機会が無い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族を含めての面談等を行い、不安になれない様気がけ、要望を聞き入居者様の気持ちを理解するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族からのご意見、ご要望など伺っている。面会の中でも気軽に話せる雰囲気づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の不安が少しでも軽くなれるよう要望や思いに対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の生活の中で一緒に作業したりしている。本人が行えるお手伝い(洗濯物たたみやテーブル拭き等)して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナで面会も制限されてしまい十分に様子がみることが出来なかったが電話にて報告している。面会時に入居者様の様子など近況報告をし、ご家族希望を聞き支援につなげていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナでなかなか出来てないが、携帯電話等で連絡をとれるようにしている。	面会には家族や友人、神父など訪れているが、新型コロナ禍で、オンライン面会を取り入れている。また、コロナ感染者数の減少した時期に、県外の家族の面会の他、馴染みの美容院へ行ったり、家族の葬儀へ参列している。馴染みの神社へドライブしたり、日記や好きなDVD鑑賞など在宅時の習慣の継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご自分たちでコミュニケーションをとって頂き、入居者様同士でのトラブルが無いよう見守っている。話題のきっかけを提供する。リビングでのんびり過ごす時間がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても他施設へ問い合わせたりお悔みに行ったりしている。ご家族にお会いした時はお互い報告しあっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望を常に聞き申し送り等で職員全員が把握できるようにプランにも取り入れる。困難時は職員間で検討もする。	起床時間や過ごし方は本人の意向に沿い、リビングや居室を自由に行き来している様子が窺える。職員は入居者の生活歴や1日の生活リズムを把握し、1対1の時間を大切に傾聴に努めている。表出困難な場合は表情や仕草の他、家族に尋ね職員間で検討している。聞き取った思いは個人日誌に記載、共有し、介護計画へ繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントでご本人、ご家族から出来るだけ詳しく情報を得るようにしている。入所後は信頼関係を気づきながら少しずつ把握するよう努めている。一人一人が基本情報書に目を通し、情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	どのように過ごされたか個人記録に記入し常に申し送り等で職員は情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意見を聞き、職員も意見を出しながら、作られている。6か月毎、更新時にプランの見直しをしモニタリングを行い次のプランに活かしている。	利用開始から1ヶ月の暫定プランを立てている。介護計画の実践状況を、毎日「できる・できない表」で評価し、毎月の検討会議では状態変化がある入居者について見直している。その後、6ヶ月ごとのモニタリング、本人・家族参加の担当者会議を開き更新しており、介護計画作成におけるPDCAサイクルが機能していることは高く評価できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、日誌、バイタルチェック表を実施しており、申し送り等で全員が情報を共有できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に応じてその時その時の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	どのような資源が地域にあるのかを把握し支援できるか努めている。定期的な運営推進会議により地域の方々との連携を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族からの要望があれば直接連絡し対応している。週1回以上の訪問診療を受けられている。	協力医をかかりつけ医とし、定期的な訪問診療があり、非常勤の看護師が健康状態を確認している。訪問歯科や訪問看護師の利用がある他、新型コロナウイルス前は訪問リハビリも受けている。他科の通院は基本的に家族同行とし、結果を共有している。協力医と24時間医療連携体制を取っており、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が常にいるとは限らないが連携は行き届いている。適切な対応が出来るよう体制はとっている。週に1度訪問看護師が来ていて健康状態を確認している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供を行い連携がうまくいくよう努めている。退院時にも情報提供してもらいその後のダメージを少なくするようしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、看護師、職員、家族と方針を話し合いチームでのケアに努めている。	ホームは看取りを行わない方針である。重度化した場合の指針を入居時本人・家族に説明し、同意書を交わしている。ただし、医師を交えた意向の再聴取や説明においては口頭での確認に留まっている。また、昨年老衰による看取りが1例あり、今後も同ケースに対応することも考えられるが、看取りの振り返り等は実施していない。	重度化した場合の指針について、入居時と同様、医師を交えた意向の再聴取や説明の際の家族の意思を書面に残すことが必要であると思われる。更に、今後のあらゆる事態に備え、職員間で不安な点を共有しながら、看取りについての振り返りや研修を深めていくことに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変の場合の連携体制をしっかりと整備し対応できるようにしている。マニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	避難訓練を行い、とっさのときにも対応出来るような体制作りをしている。避難経路等確認している。	毎月の自主訓練では、日中・夜間想定、消防設備の確認等を実施しており、内3回は併設の法人施設と各階合同で総合訓練を実施している。新型コロナウイルスの為消防署立会いは中止となり、消防設備業者による点検を継続している。ただし、自然災害における独自のマニュアル作成や訓練の実施、非常持ち出し書類の整備はこれからである。	自然災害対策として、立地条件からホーム内に留まるとした際の独自のマニュアルの作成と訓練実施が望まれる。また、緊急避難時の入居者情報の管理体制として非常持ち出し書類の整備に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時、入浴時等ご本人を尊重するよう な対応に努めている。敬語を使い失 礼のない言葉使いを心がけている。	理念の思いは「高齢者の方々に感謝して恩返しす る心を大切にしたい」であり、職員は理解し、支援 に取り組んでいる。呼びかけは苗字にさん付け で、言葉掛けはゆっくり、優しく、丁寧に心を掛 けている。入浴や排泄介助時は羞恥心に配慮し人 格を尊重した支援を行っている。個人情報の取り 扱いは写真掲載を含め同意の署名を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決 定できるように働きかけている	ご本人の希望を聞き対応している。こち らからも提案してあげたりして自己決定 がしやすいような支援を行う。観察を しっかり行い表情などで訴えがキャッチ できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひと りのペースを大切に、その日をどのように過ごした いか、希望にそって支援している	ご本人の思いやペースに合わせるよ 心がけている。ご本人の希望を聞いたり 過ごしている様子を見て対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援 している	毎日の中でご本人が着たい服を着て もらえるよう声掛けしている。ご家族と連 携して洋服を揃えている。2か月に1回 訪問美容サービスが入っている。時々 化粧をしたり、髪を結んであげたりし ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力 を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、 片付けをしている	職員が手作りで食事を提供しているの で、旬の物をお出しし、季節を感じて頂 いている。テーブル拭き、後片付け等声 掛けをして、してもらっている。現在はコ ロナ渦でなるべく離れて食事を摂って いる。	2人の食事専任職員が、入居者の希望や行事食、 季節の食材など取り入れた献立を作成し、調理し ている。イベント時の手作り弁当や一人ひとりの誕 生日のケーキ、手作りおやつなど入居者に喜ばれ ている。アレルギーに対応し、また、嚥下能力に合 わせた食べやすい形状や嗜好の代替品など食事 を楽しむ支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保 できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援 をしている	食事量、水分量をチェック。医師へ報告 している。不足時は声掛けや介助で対 応、それでも不足の時は栄養剤、点滴 などで対応している。嚥下状態によっ てはトロミ剤、刻みで対応。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひと りの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けしケアを実施している。定 期的な歯科医師、衛生士の訪問もあ つている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を目指している。お一人お一人の排泄パターンを把握しトイレへ誘導している。	職員は入居者の日ごとの排泄リズムを把握しており、その日の状態の変化を口頭で伝え共有している。日中はトイレでの座位排泄を基本として声掛けや誘導、介助を行っている。また、入居者一人ひとりの排泄状況を把握し、より良い排泄支援方法を検討する等、自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルトを飲んでもらったり、水分を多めに摂ってもらったり腹部マッサージも行っている。医師に相談し指示の下、下剤の与薬行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調に合わせて希望に沿うようにしている。拒否の方へも声掛けを上手に行い対応している。	入浴は週4回準備し、週2回を基本としている。体調や気分などで拒否の時は、時間や日を変えて声掛けし清潔を保持している。車椅子の入居者はシャワー浴支援を行っている。希望で同性介助や好みの入浴トイレタリーの持ち込みに対応し、季節のゆず湯など楽しめる入浴に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調に合わせて希望に沿うよう対応している。お昼寝などご本人に聞き、居室にお連れするなど対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人のお薬手帳をすぐに確認できるよう個人様の薬箱に保管している。薬局とも相談し飲みやすいようにしてもらっている。臨時薬は申し送り等で伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生会、クリスマス会など行事を行い、入居者様にも参加してもらっている。手作りおやつに参加してもらっている。ぬりえ、パズル等行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今はコロナ渦で控えている。落ち着いたら出掛けられるよう支援していきたい。	新型コロナ禍で以前のように積極的に外出は出来なくなったが、近くに咲いたつつじを見に行ったり、少人数で近くの神社までドライブに出掛けている。入居者の笑顔の写真から喜んでいる様子が窺える。外廊下から見える校庭の桜の花見や窓を開けて外気浴は季節を感じるなど、気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族から本人用のお金を預かり運用している。ご本人の希望があればご家族と話し合い財布を所持したり使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より要望があった場合にはご家族へ連絡が取れるよう対応している。携帯やタブレットを使っている。携帯電話を持っておられる方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保っている。季節の花を生けたり、季節に応じた飾り付けをしている。居室の温度は本人希望で調節。換気も行っている。	リビングは雛飾りの掲示物等で季節感を演出し、入居者が新聞購読やDVD歌謡鑑賞などを楽しむ憩いの場となっている。廊下には手摺りを設置し、入居者が歩行訓練に励むと共に、居室と自由に行き来している様子がある。新型コロナウイルス感染対策により換気の徹底の他、次亜塩素酸水噴霧器や空気清浄機等を設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	カフェスペースを作ったり、ユニットを越えて行き来してもらっている。一息つけるように職員休憩室の畳に腰かけ話せる空間を作っている。リビングでのんびり過ごす時間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みの物があれば持参して頂いている。居心地よい空間作りを工夫している。	持ち込みは自由で、使い慣れた小物や家族の写真などを飾り、落ち着いた環境となっている。入口の暖簾は入居者が持参し、各居室個性豊かである。職員は温湿度計により空調を管理しており、掃除や整理整頓も行き届いている。また、フローリングは年2回業者が入りワックスを掛けるなど、清潔感のある居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事を見極め声掛けを行っている。トイレや自分の席、居室が分かるよう目印をつけたりと工夫している。		